書式第１２号（法第２８条関係）

事　業　報　告　用

２０２２年度　　事　業　報　告　書

特定非営利活動法人フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

１　事業の成果

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）では、パンデミックによる影響は受けたものの、治療を必要とする患者さんへのケアの提供、スタッフ教育を継続して実施することが出来た。将来的な現地化に向けてラオス人のリーダー育成の成果が実り、2 月には看護部長にラオス人を任命、2022 年末には、LFHC のほとんどの部署にラオス人マネージャーが就任することとなった。ラオス人のリーダーシップを促進することを目標に、国内外の経験豊富なマネジメントトレーナーによるマネジメントトレーニングや、厳選されたラオス人リーダーについては、ECCIL が主催する国際研修（Australian Award for HR Managers）や国内研修（VUCA world）に参加した。

■医療

コロナのパンデミックにより外来患者数は 1 日 20～30 人にまで減少がみられたが、4 月以降、徐々に再度増加し始め、8 月（3,485 人）と 9 月（3,440 人）においては、開院以来で最も患者数が多い月となった。入院患者数に関しては、6 月から 9 月までの 4 か月間は非常に多く、廊下などのスペースを利用し通常 24 床に対して倍の患者さんを受け入れる状況もあった。

救急病棟で診療をしていた重症の患者さんのケアを主に行う重症病棟（HAU）を 7 月に 4 床～5 床で開設。重症の患者さんのモニタリングが改善されたことで、危険な兆候をより早い段階で見つけ、さらなる悪化を避けるための措置が取れるようになった。

新生児病棟では、カンガルーケアを促進するため、看護師が「カンガルーT シャツ」をデザイン・制作。病棟で使用されており、カンガルーケアの普及に貢献している。

入院病棟と外来病棟に隣接する“授乳室”を開設。入院病棟や外来待合室のお母さんたちのプライバシーを守り、安心して授乳できる場所として、また、個別の授乳サポートの他、お母さん（とお父さん）への母乳育児と初期栄養に関する教育セッションの場所として使用されている。

アウトリーチは HIV や栄養失調、脳性麻痺をはじめ、緩和ケアを必要とする子供たちやその家族への支援も行い、年間の走行距離は 4 万キロを超え、訪問数は 479 件となった。

■教育

継続的な成長や世界的なトレンドに合わせた学際的なトレーニングを行っていく必要性から、新たに「教育部」を設立した。LFHC 院内外のトレーニングを担当するほか、国内外でのトレーニングやカンファレンスに LFHC スタッフが参加する際のサポートを行うと共に LFHC の研究や質向上プロジェクトに関心のあるスタッフへの支援も行う。新人医師のための基礎コース（小児科の主要分野をカバーする 1 年間のカリキュラム）、看護師向けとしては、看護師教育プログラムですでに設定されていたコア・カリキュラムを継続して行った。学際的

なチームトレーニングの必要性から、医師と看護師の合同トレーニング（ETAT と NRP トレーニング）、医療スタッフとそれ以外のスタッフの合同トレーニング（リーダーシップとマネジメントワークショップ）を実施。一度ダウンロードすれば、Wi-Fi がない場所でも使用することができるウェブベースの学習プラットフォームの「Moodle」を導入。

個人的なスキルや専門的なスキル向上、病院全体のケアの質向上に貢献するために、国際的なカンファレンスや研修にスタッフを派遣。検査科のリーダーが隣国のタイで、感染予防・管理（IPC）チームのスタッフ 4 名が、カンボジアのシェムリアップにあるアンコール小児病院（AHC）で、また、手術室の看護マネージャー及び栄養士はオンラインでの研修に参加した。生涯学習の重要性が認識されるようになったことで、英語を学習言語として使いたいと考えるスタッフが出てきたため、海外の主要大学が提供する MOOCS（大規模公開オンライン講座）を受講するようになった。
メルボルンを拠点とする取り組みである第 3 回グローバルラーニングフェスティバルに参加し 3 人のスタッフが選ばれ、英語で発表を行った。

オンラインではなく実際に渡航したケースとして、バイオメンテナンスエンジニアはコース終了後、韓国の大学でより高度なコースを受講し、人事部長は、ASEAN の人事リーダーのための初のオーストラリア短期コースに応募し、無事修了した。

ラオス人のリーダーシップへの取り組みが国際的に評価され、看護部長は英国のプログラムである「Women of the Future」で、ESG（環境・社会・ガバナンス）分野の世界のライジングスターの一人に、入院病棟医療マネージャーは、「Kindness & Leadership 50 Leading Lights in Asia」の一人として表彰された。

■助成事業

カンボジアの「アンコール小児病院（AHC)」助成支援を行った。主に、医療教育活動及び地域医療支援教育活動への助成とし、院内外の医療従事者と医療学生に対する教育、カンボジア農村部での小児医療に関する知識や技術向上を目指す地域コミュニティ活動が実施された。医療教育活動においては、院内スタッフだけではなく、外部医療従事者をはじめ医療学生への教育も実施。専門医養成も行い、医療従事者の知識・技術向上に繋げた。農村部においては、子供たちの健康管理のため、栄養管理や衛生管理、感染予防について教育活動に取り組み、特にパンデミックにより衛生強化の必要性が認識されたことから、学校の教師向けのトレーニングも実施した。

■日本国内

オンラインでのトークイベントや活動報告会を企画。医療以外のテーマや外部専門家の方を招くなど、試行錯誤しながら実施し、団体の認知度を広めることに努めた。また、コロナ禍で中止としていた対面型イベントを再開し、運営資金の確保に繋げた。引き続き学生インターンを受け入れ、広報活動や支援者対応に関わることで、視野を広めてもらう機会となった。その他、寄付キャンペーン、助成金申請等を通して多方面にわたる資金調達に努めた。団体の知名度・認知度を高めるため、年次報告書やリニューアル版パンフレットの発行、SNS 活用の強化を図った。病院への寄贈品は、コロナ禍の影響が続き現地への輸送・運搬が厳しい状況であったが、輸送費に対する支援を受け、現地で必要とされるシリンジ（針無し注射器）を地へ届けることができた。

2　事業の実施に関する事項

（1）特定非営利活動に係る事業　　（事業費の総費用【　141,339　】千円）

事 業 名	事 業 内 容	実施日時	実施場所	従事者数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額（千円）
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行う。	通年	アンコール小児病院	382 名	1)カンボジア人医療従者のべ 9 千名以上 2)不特定多数のカンボジアの子供、教師や地域住民	44,688
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）」の運営、医療・教育・予防事業を行う。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	166 名	1)不特定多数のルアンパバーン地区の子供 2)LFHC スタッフ、他医療施設スタッフ及び患者家族	77,220
スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行う。	通年	ラオス、カンボジア	1 名	現地スタッフ約 170 名及び不特定多数の地域住民	535
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品や備品等の輸送手配や、運搬を行う。	通年	法人事務所、他	5 名	不特定多数の医療従事者と患者	345
普及啓発事業	WEB サイトやリーフレット、年次報告書の活用、イベント等で広報に努める。	通年	法人事務所、他	5 名	不特定多数の寄付者及び参加希望者	18,551